



UMEBOSHI DENSHA

花も実もある「うめぼし」

2016年春デビュー

和歌山がまだ紀州と呼ばれていた頃のおはなし。
痩せた土地が広がりとても貧しい土地がありました。
重い年貢にあえぐ農民たちを目の当たりにしたお殿様はとても心を痛めました。
ある日お殿様はどんな土地でもスクスク育つ梅の存在を知ります。
そして「梅を栽培する土地は痩せ地である」として、その土地の年貢を軽くすることに決めました。
すると農民たちはこぞって梅を栽培するようになり、改良を重ね大粒の梅を
実らせることに成功し、紀州は日本一の梅の産地となったのです。

時は流れ400年後の和歌山。
利用者が少なく一度は廃線に追い込まれた鉄道がありました。
そんな苦しい時期を乗り越え、存続した貴志川線。
貴志駅でのんびり暮らしていた1匹の猫が注目を集めるのです。
和歌山だけでなく、日本中、世界中から人を集め、
貴志川線はみるみる有名になりました。

その貴志川線で来春、
紀州を救った梅をモチーフとした車両がデビューします。
外観は梅干しをイメージした赤、内装には障子・木製すだれ、天井にも木を
ふんだんに使用し、見て楽しい、乗って心地よい「花も実もある」車両が
ニタマ駅長の待つ貴志駅まで走ります。

起死回生の梅に猫。
いい塩梅に仕上がった「うめぼし」でにぎやかな旅をお楽しみください。

2015年10月31日
株式会社ドーンデザイン研究所
水戸岡鋭治